令和３年４月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第680号

林業福島

No. 680

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

4
2021

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■木材積み込み作業

豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋　藤　卓　夫

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会の運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、この三月十一日で東日本大震災から丸十年が経過しました。震災、原発事故で大きな影響を受けた森林・林業の復興・再生は、関係者の皆様の懸命な努力はもとより、多くのご支援を頂いて歩みを進めてまいりました。しかしながら、森林・林業の再生を成しとげ豊かな暮らしを取り戻すには、今年度から始まる第二期復興・創生期間においても、林業関係団体が一体となって森林整備の推進や風評の払拭、林業担い手の確保・育成、きのこ類の生産振興など様々な課題に切れ目なく取り組んでいく必要があります。

また、国においては、森林経営管理法に基づく「新たな森林管理システム」や、激甚化する災害にも負けない「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」が実施されています。さらに、県の新たな林業人材育成研修講座「林業アカデミーふくしま」が今年度に開講されるなど、森林・林業を取り巻く情勢は大きく変化しつつあり、新たな課題にも積極的に取り組んでいく必要があります。

当協会は、今後も県内森林・林業関係団体との連携を強化しつつ、ふくしま復興のシンボルとして平成三〇年度に行われた全国植樹祭や全国林業後継者大会の成果が次の世代に確実に継承されるよう、「キラリ！森林（もり）づくり」をキャッチフレーズに、人づくり（森林整備の推進と森林・林業の振興）、心づくり（緑化の推進）、産地づくり（きのこ類の振興）及び県土づくり（測量設計調査等の実施）の四つの柱で各種事業を積極的に展開してまいりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

《もくじ》

とびら
豊かで活力ある森林を次の世代へ
公益社団法人福島県森林･林業･緑化協会
会長　齋　藤　卓　夫……1
令和３年度県林業関係当初予算……２～６
令和２年度森林（もり）づくり研修会及び令和２年度
森林・林業担い手育成セミナーを開催　……７
普及指導員通信……８
森林管理署メモ……９
木連だより……10
木の文化を育む㉕……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

令和三年度県林業関係当初予算

福島県農林水産部

森林づくりの計画・調整

▼森林計画課

森林計画課は、森林計画関係（地域森林計画、市町村森林整備計画、森林経営計画、森林審議会、国有林との調整等）、森林環境税の総合調整、森林整備地域活動支援交付金事業及び森林林業関係各課の調整業務を担当しております。

■令和三年度予算

○県総予算（一般会計）

一、二五八、五一四百万円

（対前年比八七・二パーセント）

○農林水産部予算（一般会計）

九二、四九七百万円

（対前年比七六・一パーセント）

○森林林業関係予算（一般会計）

一七、八七八百万円

（対前年比六九・七パーセント）

今年度の農林水産部の当初予算については、令和三年度中に策定を予定している新しい農林水産振興計画の策定に当たっての基本的な視点としている「東日本大震災・原子力災害からの復興」、「持続的な発展を支える強固な基盤の確保」、「安全で魅力的な農林水産物の供給」、「活力と魅力ある農山漁村の実現」これら四つの視点に基づき編成しています。

■福島県森林環境税を財源とする事業

森林環境基金事業

森林との豊かな関わりを未来の子どもたちへ引き継いでいくため、福島県森林環境税を導入し、全ての県民と企業の皆さまに支えていただきながら、「県民一人一人が参画する森林（もり）づくり」に取り組んでいます。

福島県森林環境税は、水源のかん養等の森林の持つ公益的機能を確保することが県民生活にとって重要であることから、森林環境の保全と森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成に関する施策の財源として、県民税均等割に加算する方式で納めていただいています。

納めていただいた税金は、使途が特定されることから、「森林環境基金」を設け、他の財源と区分して積立て活用しています。また、事業実施にあたっては、第三者機関である「森林（もり）の未来を考える懇談会」の意見を伺うとともに、県ホームページで事業の実施状況を公表するなど、透明で公正な執行に努めています。

森林環境基金事業は令和三年度から第四期の取組がスタートしました。第四期は、従来の枠組を踏襲しながらも、県民の皆様から頂いた要望などを盛り込んだ六つの施策区分により取り組んでいきます。令和三年度の当初予算額は一一億九、七三八万六千円で森林林業総室内四課、復興・総合計画課、環境共生課、建築指導課、高校教育課の計八課が担当します。このうち、森林計画課が実施する森林環境基金事業は次のとおりです。

①森林環境適正管理事業

ふくしま森林クラウドと森林ＧＩＳの保守・運用とふくしま森まっぷの運用　一三、九五六千円

②森林環境交付金事業

市町村が地域の実情に応じて行うきめ細かな森林（もり）づくりを支援　三一二、一三四千円

③ふくしまから　はじめよう。森林（もり）とのきずな事業

森林環境に関する情報発信と、森林（もり）づくり意識の浸透・拡大と活動の支援　一一、八九七千円

④ふくしまの森林文化継承事業（一部）

福島県の森林文化調査、森林文化の公開体験、森の恵みの理解を深める取組等　一一、二一五千円

⑤森林環境等調査発信事業

幼保施設等に導入された木製家具の使用状況を調査し発信　一、九八三千円

⑥森林環境教育支援事業

継続的な森林環境教育・学習・活動の推進の実現に向けて、教育現場の意見や要望等を踏まえた教材の制

作等　二五、三七九千円

⑦森林環境基金運営事業

森林（もり）の未来を考える懇談会の運営等

一、一九六千円

■地域森林計画の編成等

地域森林計画は、森林の持つ多面的な機能が十分に発揮されるよう、森林の保全や森林整備の目標などの基本的な事項等を明らかにするとともに、市町村及び森林所有者等に森林施業上の指針及び規範を示し、その適切な施業の確保を図るため、民有林を対象として五年ごとに十カ年の計画を策定するものです。

本年度は、会津地域森林計画の樹立を行います。　六、八一二千円

■森林整備地域活動支援交付金事業

森林の多面的機能を十分に発揮させるには、間伐等の森林整備を継続的に実施する必要があります。

当事業では、持続的な森林経営の実現や、計画的な森林整備の着実な実行に不可欠な「森林経営計画」の策定・施業の集約化を推進するため、森林所有者や森林組合、林業事業体等が実施する次の取組を支援します。

①「森林経営計画作成促進」への支援

森林所有者や森林組合、林業事業体等が行う森林経営計画の策定のために必要な森林情報の収集・整理や、計画区域の検討、森林整備の提案書の作成、計画参画への森林所有者の同意取得等の活動を支援します。

②「森林境界の明確化」への支援

境界の確認や測量に必要な森林情報の収集、境界が不明瞭な森林で行う境界の確認や測量、情報の整理・保存、市町村への情報提供等の活動を支援します。

③「森林経営計画作成・森林境界の明確化に向けた条件整備」への支援

施業集約化を進める上で重要となる既設路網の簡易な改良を支援します。　五、六三七千円

■林業成長産業化地域創出モデル事業

森林資源を活用した地域の活性化を図るため、森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を図ることにより、地元に利益が還元される取組を支援します。

①林業機械作業システム整備事業

森林整備の効率的かつ円滑な実施、林業再生の担い手育成及び林業生産コストの低減を図るために必要な高性能林業機械等の導入を支援します。　六、一六六千円

②木造公共施設整備事業

地域の木材を利用した木の町コミュニティ館（仮称）を展示、コミュニティ、研修、木育、木材情報、森林文化の発信機能を持たせた地域振興拠点施設として整備します。

一一一、六八四千円

③先進的モデル提案事業

林業の成長産業化を実現するために必要なソフト対策を支援します。

八、二〇〇千円

■森林環境モニタリング調査事業

県内の民有林を対象に、森林内の空間線量率や立木、土壌に含まれる放射性物質濃度の調査及び結果の評価・解析等を行い、森林における放射性物質対策を推進するために必要な情報整備を行います。

一〇五、〇〇〇千円

■里山再生事業

住民が身近に利用してきた日常的に人が立ち入る里山において、住民が安心して利用できる里山の環境作りを推進します。また、里山再生事業実施地区における除染や間伐等の森林整備と放射性物質対策を一体的に推進する対策の効果を検証し、地域住民の安全・安心の確保に向けた空間線量率等を把握するためのデータ収集を行います。

七八、〇八二千円

■森林環境譲与税を財源とする事業

森林環境譲与税は、地球温暖化防止森林吸収源対策等のため、森林整備等の恒久的な財源として制度化されました。県譲与分は、「森林環境譲与税基金」を設け、他財源と区別し、活用していきます。

令和三年度の森林環境譲与税基金の当初予算額は一億四、三八八万三千円で、このうち、森林計画課が実施する事業は次のとおりです。

①森林情報支援事業

森林管理に必要な森林基本図等の森林情報の整備を図ります。

二八、〇〇〇千円

森林の整備と林道・森林作業道の整備

▼森林整備課

森林整備課では、東日本大震災以降、森林の公益的機能低下が懸念されることから、引き続き森林整備や路網整備を推進するとともに、放射性物質の拡散防止対策に取り組みます。

また、県内では主伐期を迎える人工林が七割を占めていることから、伐採後再造林による将来の森林資源造成のため、花粉の少ないスギ苗木やスギ成長形質に優れた特定母樹の普及啓発とともに伐採と造林を連携して実施し低コスト化を図る一貫作業システムを支援するほか、令和二年七月末梅雨前線豪雨等により被災した林道施設を復旧する市町村へ支援を行います。

■森林再生関係

原子力発電所の事故による放射性物質の影響を受けた森林の再生を図るため、間伐等の森林施業や路網の整備と、その実施に必要な放射性物質対策を行う市町村等事業の支援と県事業の推進に取り組みます。

また、きのこ原木林等広葉樹林の更新に必要な伐採と放射性物質濃度等調査の実証的な取組を支援します。

①ふくしま森林再生事業
四、四六九、一六一千円

②広葉樹林再生事業
二三六、四七九千円

■森林整備関係

民有林を対象に公共事業及び森林環境基金により、林業事業体等が計画的に行う間伐、再造林、一貫作業システム等の森林整備を支援します。

また、森林環境譲与税により、過去の森林施業履歴データの収集・整理を行い、そのデータを福島県版森林クラウドへ搭載する業務を行います。

①一般造林事業（公共事業）
六五六、七八二千円

②森林機能向上事業（森林環境基金事業）
三六四、六二一千円

③森林機能維持事業（森林環境基金事業）
七二、八八八千円

④森林施業履歴等データ管理事業（森林環境譲与税）
三三、〇〇〇千円

■公有林・種苗関係

県土の保全等に資する県営林の整備を推進するとともに、花粉の少ないスギ苗木やスギ特定母樹の普及啓発や早期供給に取り組みます。

①県営林の保育管理事業
五〇、八八七千円

②花粉の少ない森林づくり事業（森林環境基金事業）
六、七二〇千円

■林道・森林作業道整備関係

森林の多面的機能を高度に発揮させるため、森林の適正な整備・保全を図るとともに効率的で安定した林業経営の確立、山村地域の定住環境の整備等、森林整備や林業生産活動の基盤となる林道や作業道の路網整備を促進します。

①林業専用道整備事業
七五九、九九四千円

②林道事業（林業専用道を除く）
一、二〇五、〇〇六千円

③森林情報活用路網整備推進事業
四五、三二〇千円

④森林整備促進路網整備事業（森林環境基金事業）
一四、九四六千円

⑤間伐材搬出支援事業（森林環境基金事業）
二四、〇〇〇千円

■林道災害復旧関係

令和二年七月末の梅雨前線豪雨や令和元年東日本台風で被災した林道の復旧のほか、異常気象等により林道が被災した場合に、市町村が行う復旧事業を支援します。

①林道災害復旧事業（現年災）
六〇五、三〇三千円

②林道災害復旧事業（過年災）
七〇六、九九八千円

林業・木材産業の振興と担い手育成　▼林業振興課

林業振興課は、県産材の需要拡大、人材の育成等により、林業・木材産業の成長産業化を図るとともに、県内で生産される林産物の安全性を確保するため、「県産材製品の安全確認」や「安全なきのこ生産」に向けた事業を展開します。

■県産材の安定供給・利用促進・需要拡大

県産材の安定供給・利用促進・需要拡大を図るため、高性能林業機械の導入に要する経費の支援、新たな木材利用技術の導入・普及、首都圏や海外への販路拡大、児童・生徒への木育活動等及びペレットストーブの導入等の支援を行います。

◆林業・木材産業金融の充実
八一九、八二三千円
①林業振興資金
②森林組合連合会事業振興資金
③木材産業等高度化推進資金
④林業・木材産業改善資金貸付金
⑤林業・木材産業改善資金管理指導費
二、三六五千円

◆木材産業活性化事業
①木材業者登録事務
六六、五三七千円

◆林業構造改善事業
一二〇、五五一千円
①ふくしまの低炭素社会づくり推進事業
②木づかい社会づくり促進事業
③地域林業技術伝承事業
④ふくしまの森文化伝承事業

◆森林環境基金関係事業

■林業就業者等の確保・育成

林業の人材育成に関する基本構想に基づき、林業担い手の育成を図るための研修施設整備と、新たな林業研修講座「林業アカデミーふくしま」の開講に取り組むとともに、林業への新規就業の促進や、林業事業体への社会保障拡充支援など、総合的な担い手対策を展開します。

◆林業人材育成事業
六四一、九九二千円
①地方創生林業研修拠点整備運営事業
②林業研修拠点整備運営事業

◆森林整備担い手対策基金事業
五九、〇四三千円
①新規参入等促進事業
②社会保障充実強化事業等

◆林業労働安全衛生対策
一、四三五千円

■林産物の安全性の確保

県内で生産される林産物の安全性を確保し、経営の安定と生産の回復を図るため、木材製品の放射線量の検査、安全なきのこを生産するために必要な生産資材の導入支援、原木しいたけ露地栽培等の実証事業などを実施します。

◆県産材安全性確認調査事業
四三千円

◆放射性物質被害林産物処理支援事業
八二八、四六七千円
①汚染樹皮処理支援業務
②樹皮利活用安全性検証事業

◆特用林産の振興
二七九、三三一千円
①きのこ類振興対策事業
②安全なきのこ原木等供給支援事業

◆森林活用新技術実証事業
二八、二三〇千円
①広葉樹安定供給調査事業
②山菜生産再開のための技術検証事業

◆林業試験研究施設の管理運営
二六、三一四千円

森林（もり）づくり活動の推進と安全で快適な県土の保全　▼森林保全課

森林保全課では、県民参加の森林（もり）づくり・緑化の推進及び森林病虫獣害から森林を守る森林保護、安全で快適な県土形成のための治山事業、保安林制度に基づく保安林の適正管理、民有林を開発する際の審査・指導に関する業務を担当しています。

■森林（もり）づくり活動の推進と森林保護

県民参加による森林（もり）づくり活動と緑化運動を支援するとともに、森林（もり）とのふれあいの場の提供や森林（もり）づくりの理念を発信する拠点を整備することにより、第六九回全国植樹祭を契機に高まった県民の森林（もり）づくりへ

の意識を更に醸成し、将来へ引き継ぐための事業に取り組みます。

また、松くい虫やカシノナガキクイムシ等による被害から、森林を守るための防除対策や野生動物との共生のための里山林の整備活動を支援します。

◆森林（もり）とのふれあい・緑化活動の推進

①総合緑化対策事業　二、五一六千円

②森林総合利用対策事業　一二、八四六千円

③森林（もり）とのふれあい施設管理事業　一〇〇、〇八三千円

◆森林環境基金事業

①ふくしま植樹祭開催事業　二〇、〇〇〇千円

②森林環境学習の森整備事業　三一、九五八千円

③森林づくり総合対策事業　一八、二五三千円

④里山林整備事業　八〇、〇〇〇千円

◆森林保護

①森林病害虫等防除事業　等　四六、一五一千円

・松くい虫・カシノナガキクイムシの防除対策

・山火事予防・森林保険加入促進等

■治山事業による県土の保全

治山事業は、民有保安林の維持造成を通じて、山地に起因する災害から県民の生命・財産を保全するとともに、水源のかん養、生活環境の保全・形成を図り、安全で安心できる豊かなくらしの実現を図るうえで不可欠な事業です。

令和三年度の治山事業は、令和元年東日本台風の被災地復旧や森林の機能強化に加え、流木対策、防災・減災、国土強靭化対策に取り組みます。

特に復旧・復興の要となる海岸防災林造成事業は着実に進展しており、津波により失われた保安林の機能を確保するため、復旧・復興の最終段階となっています。

県単独治山事業は、国庫補助事業に採択されない復旧及び予防が必要な地区について、緊急性や優先度を総合的に勘案し、順次執行していくこととしています。

なお、「地産地消の推進」については、県産間伐材を利用した森林土木工法の推進や平成十四年度から導入している治山ダムの間伐材型枠工等により、県産材の積極的な使用を推進してまいります。

また、森林ＧＩＳを活用し、最新の山地災害危険地区情報を県民に提供するなど、ソフト対策の充実を図ることにより、防災意識の高揚や避難態勢の整備が進められ、減災効果の向上に寄与することを期待しています。

◆一般治山費　一、六七八、〇一三千円

◆一般治山費（県単）　一四四、七二〇千円

◆災害関連治山費　一一、二六一千円

◆県単治山費　一、〇六八、〇七七千円

◆治山災害復旧費　五五、八〇三千円

■安全で快適な暮らしを守る保安林の管理と適正な林地の利用

現在、県内においては、森林面積の約四一パーセントに当たる約四〇万ヘクタールの森林が保安林に指定されています。

水源の涵（かん）養や山地災害の防備、生活環境の保全・形成等、私たちの暮らしを守るために、特に重要な役割を果たしている森林を保安林に指定するとともに、立木の伐採制限や適切な施業の実施を推進するなどして、森林の保全と機能の維持増進を図ります。

併せて、保安林等を適正に管理するため、森林保全巡視員による森林パトロールを実施します。

さらに、森林において土石を採掘したり、林地以外に転用する行為が無秩序に行われると、森林の働きが損なわれ災害が発生する恐れがあることから、林地開発許可制度に基づき審査や指導を行い、開発規模が大きい場合などは、有識者の意見を聴くために森林審議会森林保全部会を開催します。

①森林保全管理事業　八、〇八六千円

②保安林整備委託事業　八、四六五千円

③保安林整備管理事業　一一、二〇〇千円

令和二年度森林（もり）づくり研修会及び令和二年度森林・林業担い手育成セミナーを開催

（公社）福島県森林・林業・緑化協会
福島県林業労働力確保支援センター

令和二年度森林（もり）づくり研修会

令和三年一月二二日（金）に、郡山市の「ビッグパレットふくしま」で、林業事業体及び林業関係者に向けて、就業者の定着促進のため、キャリア形成に必要な知識等を習得するための研修会を開催しました。

テーマを『県内の最新林業事情と林業事業体の進む道』として、『脱・国産材産地』時代の林業の動きが進むなかで、川上～川下が連携して持続可能で共栄できる林業経営のあり方をパネルディスカッション方式で討論いただきました。

コーディネーターには幡建樹氏（東京大学アジア生物資源環境研究センター特任研究員）、パネラーに佐川広興氏（協和木材株式会社代表取締役）、遠藤秀策氏（遠藤林業株式会社代表取締役、レポート提供）、田子英司氏（いわき市森林組合代表理事組合長）、松澤瞬氏（合同会社SCOP代表社員）、鈴木賢二氏（南東北木材株式会社代表取締役社長）を迎え、参加者は事業体・森林組合の職員、林業団体職員等を含めて計四四名となりました。

五名のパネラーからの、具体例を挙げての現在の取り組みやどのような将来像を目指しているかの発表と討論を基に、幡先生に課題を整理していただきました。

【川上側の課題】素材の安定供給に向けた仕組みや体制づくり、素材生産コストの低減、境界の明確化、労働災害の減少、優良材・良質材の確保と活用、認証材の普及と活用等

【川下側の課題】安定的な素材確保、木材価格の安定化、生産性の向上等による山元への還元、木質バイオマス発電事業との共存、海外市場への展開等

【川中側の課題】一般材の価格の向上、優良原木の販路の開拓、川上～川下の繋ぎ目としての役割等

最後に、幡先生より「一般材は国際的標準価格である中で、優良材を活用しながらマーケットを創出していくには、今まで以上に川上～川中～川下の三者が連携し、情報を共有しディスカッションしながら、力を合わせて共存共栄のため取り組んでいく必要がある」とまとめていただきました。

森林づくり研修会の様子

参加者の方々は、普段は触れる機会が少ない各方面のリーダーの意見や考え方や質疑応答に、熱心に聞き入っていました。

令和二年度森林・林業担い手育成セミナー

令和三年二月十三日（土）に、郡山市の「ビッグパレットふくしま」で、森林・林業に意欲と技術力を有する優れた担い手の育成・確保を支援するため、当協会の主催、福島県・福島県森林組合連合会・福島県木材協同組合連合会の後援で開催しました。

テーマを『「脱・国産材産地」時代の林業経営のあり方in福島』として、講師に、餅田治之氏（大日本山林会副会長）と幡建樹氏（東京大学アジア生物資源環境研究センター特任研究員）を迎えてご講演いただき、参加者は事業体・森林組合の役職員、県・町・林業団体職員等を含めて計三九名となりました。

餅田先生より「大型化する木材工業と森林経営」と題して、近年大型化・効率化が進む川下側の木材産業と、規模拡大等に消極的な川上側の森林経営を対比して、両者の現状とますます大きくなるギャップを川上側は今後どうするべきかという内容でお話しいただきました。

幡先生よりは「川上～川下が共栄できる持続可能な林業経営に向けた課題」と題して、「森林づくり研修会」でのパネルディスカッションで整理された上記の諸課題の内容とその解決に向けて取り組むべき方策等についてお話いただきました。

会場の参加者からは、県内の山元立木価格低下の理由、育林経営規模拡大のうえで障害となる林地境界の問題、川上～川中～川下の連携への取り組み、林業経営を成り立たせるためのモデルケース、小規模事業者が仕事を続けやすくするための方策等、活発に質問が挙がり、両先生からはアメリカでの事例紹介等も交えて、アドバイスをいただきました。

今の林業が抱える様々な問題や課題、森林経営のビジネス化の必要性、優良材の活用や海外市場への進出拡大などこれからの林業の可能性等について考える機会となり、学びの多い貴重な研修会となりました。

森林・林業担い手育成セミナーの様子

普及指導員通信

林業におけるICT機器の活用について

福島県県北農林事務所
林業普及指導員　油　井　竜　太

近年、情報技術の発展に伴い、林業分野においてもドローンやレーザ計測等のICT（情報通信技術）を活用したスマート林業が試行され始めており、林業現場が抱える担い手の確保・育成、作業の効率化・省力化や労働安全確保等の課題解決に向けて有効な手段になると期待を集めています。

福島県では、森林クラウドを基盤として、森林簿や森林計画図、航空レーザ計測成果など、様々なデータを整備していますが、その利用は県、市町村が主で限定的です。今後、森林経営管理法に基づく意向調査や森林整備、森林経営計画の策定など、林業事業体においても森林情報を高度に扱う業務の増加が見込まれ、GIS等によるICTの活用は必須となっています。

そこで県北農林事務所では、林業事業体を対象として簡単に導入できる無料のGISソフト「QGIS」を活用し、施業の集約化や森林経営計画策定、現地調査等における技術支援を行っています。

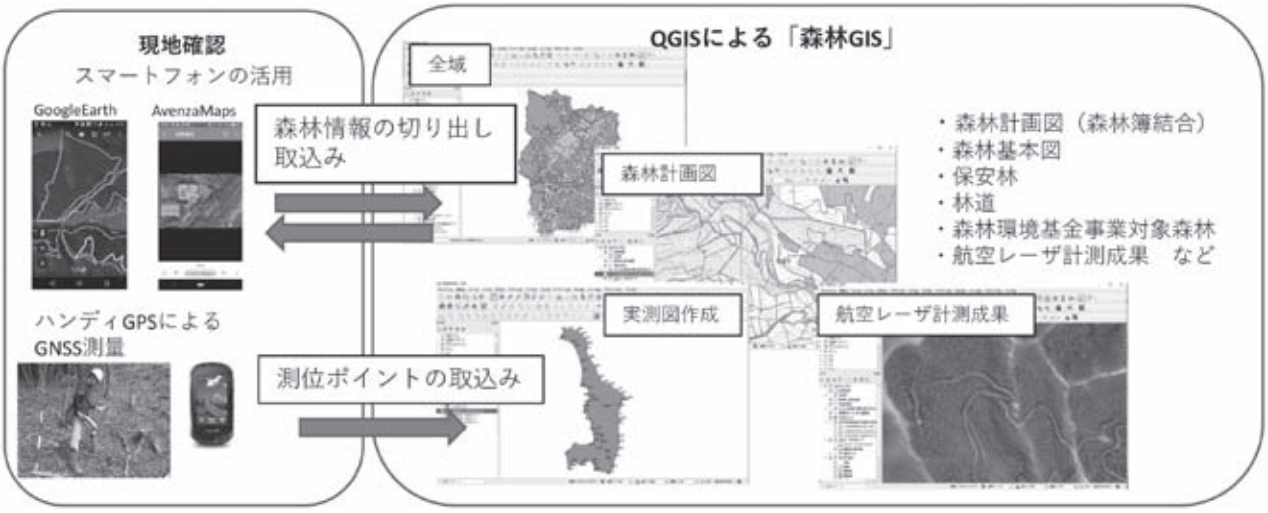
まず、福島県地域森林計画関係資料の交付申請により取得した森林計画図等のデータを重ね合わせて、県北管内の「森林GIS」を構築しました。これにより、森林所有者の特定や森林資源の把握、境界の確認等がパソコン上で可能となります。

さらに、それらの森林情報を現場に持ち出すため、無料で使用できるスマートフォン用アプリ「GoogleEarth」や「AvenzaMaps」を導入することで、森林計画図や航空レーザ計測データを重ね合わせた現地確認ツールとして活用することが可能となります。

また、現地測量において大幅に労務低減を図ることができるGNSS測量についても、「森林整備事業におけるGNSS測量の手引き」を作成配布し、従来のコンパス測量に代えて、ハンディ GPSを活用した周囲測量の技術支援を行っております。

QGISやスマートフォン、ハンディ GPSといった手軽に導入できるICTを活用することで、より広く業務の効率化、省力化を図ることができます。今後もこれらの技術の普及を進めるとともに、林業事業体等が県の運用する森林クラウドへ参加可能になった際には、森林クラウドを中心とした事業体・市町村・県での森林情報の共有化の実現に向けた体制の整備を推進していきたいと考えています。

イメージ図



森林管理署メモ

会津森林管理署 南会津支署での森林づくり教育

関東森林管理局

会津森林管理署
南会津支署

はじめに

当署では森づくり教育の一環として、様々な活動を行っています。例年、小学生を対象にした森林教室や中学、高校生においては林業体験、さらには地元文化祭への出張展示を行っていましたが、令和二年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、いくつかのイベントが中止となってしまいました。このような状況でしたが、感染症予防対策に配慮したうえで小学校での森林教室と高校での林業講話、林業体験を実施することができました。

森林教室

伊南小学校での森林教室では、毎年、一・二年生を対象に木工工作を行っています。事前に準備しておいたブナやナラのドングリや様々な樹木の小枝などを使って思い思いの作品を制作しました。この木工工作は小学校では人気のあるイベントの一つで、前日から何を作るか考えているほど生徒達は心待ちにしていたとのことでした。生徒達の制作スタイルも様々で一つの作品をこだわって作る生徒もいれば、数多くの作品を次々生み出す生徒もおり、指導・補助に当たった職員も驚きや新たな発見があったところです。二年生は今年度の森林教室が最後となりますが、また来年もやりたいと言ってくれる生徒ばかりで大盛況で終えることができました。来年度以降も実施していきたいと考えています。

木工工作（森林教室）

林業講話・林業体験

南会津高校での林業講話は、一年生三七名を対象に林野庁の情報誌「林野―ＲＩＮＹＡ―」を使って国有林での事業の流れや重点的に取り組んでいる事項について紹介しました。生徒達も真剣な眼差しで講話を聴いていましたが、どうしても専門用語が多くなり内容的には難しかったかもしれません。講話終了後は、場所を校庭に移し、丸太切り体験をしました。例年は、現場での小径木の伐採などを体験してもらうのですが、令和二年度は学校からの要望もあり丸太切りを行いました。ノコギリで丸太を切るのが初めてという生徒も多く、初めは恐る恐るといった感じでしたが、終盤では達人並みの腕前の猛者も現れ、こちらも大盛況のうちに終えることができました。

令和三年度になっても新型コロナウイルス感染症の影響は続いていくものと思いますが、新しい生活様式も社会に少しずつ定着してきていることから、令和二年度には中止となったイベントも再開できるのではと考えています。会津森林管理署南会津支署では、今後とも森林教室や体験林業などを通じて森づくりや森林そのものに関心を持ってもらえるように取り組んでまいります。

丸太切り（林業体験）

木連だより

内装木質化がもたらす効果

（令和2年度　内装木質が小児患者等に及ぼす影響効果調査より）

福島県木材協同組合連合会

令和二年六月ＲＣ造から木造（縦ログ構法　木材使用量　二七六・一九立方㍍）に改築したクリニックを対象（左記「１　対象施設の概要」参照）に内装木質が医療スタッフの作業性・効率性、患者の通院数を高める効果の実証を行いました。

具体的には、来院される方（親・子供さん）・医療スタッフを対象にアンケート調査を行いました。対象の医院は旧クリニック（ＲＣ造）においても来院されている方等へのアンケート調査（満足度調査）を実施しており、これまで実施した旧クリニック（ＲＣ造）の結果と新クリニック（木造）の結果を比較しました。

スタッフのアンケート結果（印象評価）は全体として良い評価であり、木の空間に変わって、自然な感じや香りの良さの指摘も多く、結果的に、スリッパや上履きを履かず壁や床に触れる機会も増え、休憩時間等にも長く滞在する様な行動変容につながっていました。来院者のアンケート調査結果は、下図「２来院者アンケート結果」のとおりです。すべての項目において二〇二〇年（木質空間）が二〇一九年（ＲＣ空間）を上回りました。「質問・相談のしやすさ」、「待ち時間の対応」などが、スタッフの対応についても改築後に良い評価になる傾向が見られることから、内装木質がスタッフの労働環境の改善となり来院者（保護者）の満足度に影響していることが推測されました。

１　対象施設の概要

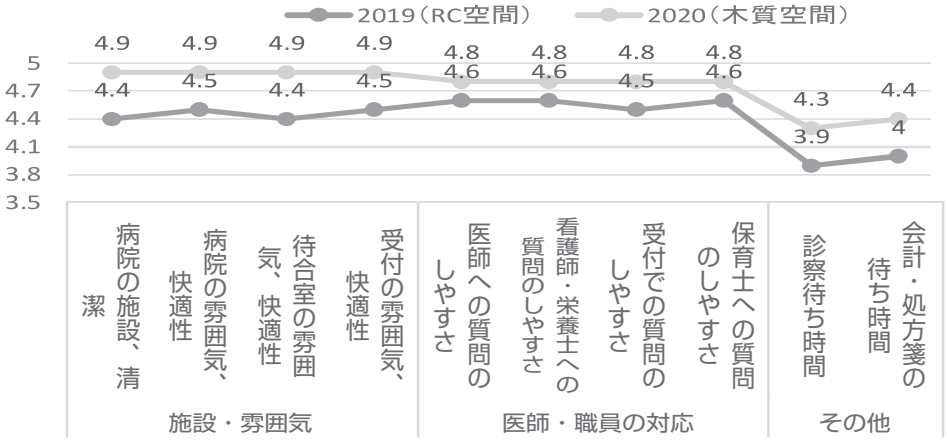
■旧病院概要
- 延床面積：約520.07㎡
- 機　　能：診療所＋病児保育
- 竣 工 年：1986年

■新病院概要
- 延床面積：654.81㎡
- 機　　能：診療所＋病児保育
- 竣 工 年：2020年

内装状況（受付）

２　来院者アンケート結果

5段階の選択肢（5：非常に満足、4：満足、3：どちらとも言えない、2：やや不満、1：不満）から1つを選んでもらい、点数の平均を表したもの



＊協力・資料提供
郡山市本町
医療法人仁寿会
菊池医院

木の文化を育む㉕

地産地生の住まいを造る（地球と家族を考える会）

郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授 阿　部　恵利子

○はじめに

近年、持続可能な経済・社会づくりのため、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の指針をもとに、さまざまな取り組みが実施されています。自然との共生、環境の持続可能性を考える時、地域の資源や経済をいかに循環すべきか、また、環境負荷を少なくするために生活者としてどのような選択をすべきか。

○サスティナブル社会の構築

福島県産木材を一〇〇㌫使用した家造りのために有志が集まり、合同会社 地球と家族を考える会（須賀川市）では〝ふくしまの家ＫＵＭＩＫＯ〟を施工・販売しています。代表社員の嶋影健一さんは、福島県の森林や林業の現状を憂い、地域で産まれたものを地域で生かすことを考え、地産地生の住まい〝ふくしまの家ＫＵＭＩＫＯ〟を造りました。「主素材である木は持続可能な社会をつくる、枯渇しない唯一の資源です。木を建築に使うことで、植えて育てて、伐って使い、また植える。そのサイクルを実現します。」と嶋影さん。

○ふくしまの家ＫＵＭＩＫＯ

〝ふくしまの家ＫＵＭＩＫＯ〟の由来は、障子や欄間に使用される繊細な匠の技「組子」に由来しています。

嶋影さんは、木の力を生かす日本古来の伝統構法に独自の技術を駆使し、金物に依存しない構法〝真壁構造体〟（国交大臣認定を取得）を考案しました。その構造体の基本は日本古来の神社や穀物倉庫を造ってきた建築技術の板倉造りです。板倉の壁に独自の技術を加え、住まいの構造体として使えるようにしています。蟻加工した四寸角の柱と柱の間に厚さ三五㍉の無垢材を落し込み、金物を全く使用せずに、貫・込み栓・長ほぞで緊結する真壁構造体は、「日本の匠の技を未来に引き継ぐとともに、日本の木を使う道を拓くことにもなる。」と嶋影さん。

真壁構造体は内装壁になるとともに、地震や台風から家を守る耐力壁の役割も担っています。その構造は靭性があり、東日本大震災で経験した震度六強にも耐える強度を有しています。

室内に柱が見える真壁造りは、木組みの美しい構造が見られる良さがあります。また、木が表に出ることで、結露などから木の腐朽を防ぎ、建物を長持ちさせることが最大の長所となっています。また、自然に還る素材を使用しているため、環境に優しく循環型社会にも貢献しています。

○ＫＵＭＩＫＯ木の家講座

地球と家族を考える会では、毎年「森の木が家になるまで」をテーマにＫＵＭＩＫＯ木の家講座を開催しています。講座では、県土の約七割を占める福島の森をフィールドに、森が果たす大切な役割を学ぶほか、普段は見る機会のない木の伐採や原木市場も見学します。樹木医や森林セラピスト、林業家、建築家など、森と関わる専門家の話をさまざまな視点でクローズアップし、森のめぐみが住まいとなり、暮らしをつくっていくプロセスを体感します。

○まとめ

森林資源は上手に使うことで循環型社会の一端を担います。福島の森の恩恵を次世代に継承していくシステムを地域で連携を図りながら構築し、森林との関わりで福島県民一人ひとりの生活が潤い、充実したものになることを願います。

貴方も地産地生の住まい方について考えてみませんか。

KUMIKO木の家講座
（上：森林の癒し　下：栃の実）

柱と土台、柱と梁・桁の接合は「長ほぞ込み栓」でしっかりと木を組みます。

ふくしまの家KUMIKO

木材市況

十二月の原木市場への入荷量は、前月比三パーセント減（前年比一七パーセント減）の二一、九〇三立方メートルとなっている。

販売量は、前月比変わらず（前年比一七パーセント減）の二二、〇五〇立方メートルとなっている。

一月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2021年１月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	8 (6～10)	0	(0～ 0)		10 (10～10)	0	9 (6～10)	1
		10～14		並	スギ	13 (12～14)	0	(0～ 0)		12 (11～12)	0	12 (11～14)	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	13 (11～14)	0	14 (14～14)	0	13 (13～13)	0	13 (11～14)	0
				並	ヒノキ	15 (14～17)	0	(0～ 0)		16 (16～16)	0	16 (14～17)	0
			6.00	並	スギ	15 (14～16)	△1	10 (10～10)	0	17 (16～18)	0	15 (10～18)	0
				並	ヒノキ	24 (24～25)	0	(0～ 0)		22 (20～24)	0	23 (20～25)	0
		20～28	3.65	並	スギ	13 (12～14)	1	11 (10～12)	0	13 (12～13)	0	12 (10～14)	0
			4.00	並	スギ	12 (12～13)	0	12 (12～12)	2	13 (12～13)	0	12 (12～13)	0
				並	アカマツ	10 (8～12)	0	12 (12～12)		9 (8～10)	0	10 (8～12)	0
			1.80	並	アカマツ	7 (5～ 9)	0	(0～ 0)		8 (8～ 8)	0	7 (5～ 9)	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	(0～ 0)		(0～ 0)		30 (30～30)	0	30 (30～30)	0
				並	米マツ	28 (28～28)	0	30 (30～30)	0	28 (28～28)	0	29 (28～30)	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		25 (25～25)	0	25 (25～25)	0
			4.00	並	アカマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		25 (25～25)	0	25 (25～25)	0
				並	カラマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		25 (25～25)	0	25 (25～25)	0
パルプ用材				並	マツ	7 (7～ 7)	0	(0～ 0)		7 (7～ 7)	0	7 (7～ 7)	0
				並	広葉樹	10 (10～10)	0	(0～ 0)		(0～ 0)		10 (10～10)	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0～ 0)	0	7 (6～ 9)	0
	13～14		並	カラマツ	(0～ 0)	0	8 (7～ 9)	0
	16以上		並	カラマツ	(0～ 0)	0	11 (10～11)	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

鉄分多め「古写真」と共に平駅（現いわき駅）に思いを馳せる

いわき農林事務所　主査　大関康二

始発終着駅ともに福島県内限定でＳＬの短距離運行を行うならば、最も適した路線は磐越西線会津若松駅～郡山駅間である事は異論ないであろう。鈍足だが大型で人気の蒸気機関車Ｄ51が臨時運行されることの多い両駅にはＳＬの方向転換に欠かせないターンテーブル（転車台）があるからで、特に扇形機関庫（あるいは扇形庫とも呼ぶ）を備える会津若松駅のターンテーブルは近代化産業遺産に指定され、日本一の京都梅小路（扇形機関庫引き込み20線）、岡山県津山（17線）に次ぐ国内三番目（15線）の規模を誇る。

次いで我らが、いわき駅～郡山駅間の磐越東線であろうが異論が出そうなのは、ＳＬあぶくま号を先導する小型蒸気Ｃ11がバック運転が得意な機種とはいえ、いわき駅にターンテーブルが無いため、どちらか片道は、進行方向と逆向き牽引する仕儀となり観光列車としては、甚だ不恰好だった点だ。

そんな、古いものをかなぐり捨てる残念な？いわき駅は、元は磐城平城の内外堀を埋め立て作られ、気候風土も相まって、平成六年に平駅から改名し、最新の電車特急ひたち号も、復興のためなのか、仙台駅との間をかなり停車駅数を増やして二時間四分で結んでいる。

だが一方で、昭和四〇年代初頭、日本最大の蒸気機関車Ｃ62が12輌も配属され、20系寝台特急ゆうづる号を牽引し平～仙台間をノンストップ二時間十五分で高速運行し、（Ｃ62が平機関区から広島県呉へ転出する常磐線完全電化の昭和四二年、福島第一原発の起工式が行われたという。）、Ｄ51はもちろん、他にも例えば『鬼滅の刃』の無限列車のモデルとなった８６２０形が７輌蝟集し、大正四年に建てられた巨大な木造扇形機関庫だけ見れば引き込み線数27と京都の20線をも凌ぐターンテーブルを備える時代もあったのだ。

そんな巨大な木造の扇形機関庫が一体何処に有ったのだろうか、いわき総合図書館蔵、戦後米軍が昭和二〇年代に撮影した古い空中写真を見てみよう。

昭和四六年三月、約五〇年前に取り壊された旧平駅の扇形庫（当時、平ではこう呼ばれた）は扇形を超え、馬蹄形をしているが、上空から御覧あれ。

はなしのひろば

一歩

桜の季節である。桜の開花は、春を一気に表現してくれる。また、高木なら見上げて眺められるのもいい。見上げた視線の先に四月の青い空が広がっていれば心が吸い込まれ、なおさらいい。冬で縮こまっていた心身を解放してくれるから不思議な花だ。

こんな桜に思いを込めて、桜を植え続けている人達がいる。飯舘村の会田征男さんご夫婦は「飯舘に人が集まるように」と平成八年から震災後の避難中も村に通い続けヨシノやオオヤマザクラなど三、〇〇〇本を植え続けた。ドローン空撮で見る映像は見事な桜ラインだ。

さらに、平成二五年には、ふくしま浜街道一六三キロに二万本の桜を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」が、また、平成二七年には「おだか千本桜プロジェクト」が立ち上がった。何れのプロジェクトにも桜が縁で沢山の人達が集まり、植栽や管理に関わっている。それらの桜は、いつからか「復興の桜」と呼ばれるようになった。桜には心の復興の後押しができる力と日本人の心の琴線を震わす美しさがある。

さて、四月十九日は「地図の日」（最初の一歩の日）である。伊能忠敬が五五歳で蝦夷地（現：北海道）の測量を行うために江戸を出発した記念日であり、測量は主に正確な「一歩」の歩幅を積み重ねたものだったという。地図作りの最初の一歩、桜プロジェクトの最初の一本を繋いでいく使命感の強さに頭が下がる。

四月は、新しい年度が始まる月。一歩を踏み出す区切りの月だ。どこまでも自分らしい歩幅を重ねていきたい。

（都）

表紙の写真

「木材積み込み作業」
第17回ふくしま森林・林業写真コンクール 最優秀賞
受賞者　大島市郎さん（会津若松市）
撮影場所：柳津町
コメント：春、雨降る中の作業中

編集　福島県
発行　福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行人　水戸典明
（福島市中町五番一八号県林業会館内）
陽光社印刷株式会社
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

令和３年度 一般財団法人福島県林業会館 フォレスト助成金（協賛）事業の募集要項

１．趣　　旨　一般財団法人福島県林業会館（以下、林業会館という）は公益事業としてフォレスト助成金（協賛）事業を募集します。

２．総　　額　4,500千円

３．募集事業の内容
(1)　対象事業　イ．森林の整備　ロ．木材の利活用　ハ．特用林産の振興　ニ．森林・林業教育学習
ホ．森林とのふれあい推進　ヘ．森林・林業に関するその他必要と認める事業
(2)　事 業 費　一事業あたりの助成金（協賛）額は、原則として20万円以内。

４．助成（協賛）対象者
(1)　県内の林業に携わる県内所在の団体であること
(2)　交付条件を遵守することが確実であること
(3)　交付金によって目的事業を実施することが確実であること

５．申請方法
(1)　申請手続　事業の目的、内容、交付申請額を福島県林業会館事務局まで提出。
詳細は事務局まで電話でお問い合せください。
(2)　事業の実施期間　令和３年４月１日から１年以内
(3)　受付期間　令和３年４月１日から５月末日まで

６．事業の採択決定
(1)　林業会館が設置する「フォレスト助成金審査委員会」で選定いたします。
(2)　事業の採決は、１団体原則６回までとします。
但し、審査委員会で事業継続懸念なしと認めた団体は除きます。

７．応 募 先　〒960-8043福島市中町５番18号　一般財団法人福島県林業会館事務局あて
TEL・FAX 024-522-2407

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（南東北支店） 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
（支　　店） 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島 四月号 通巻第六八〇号
令和三年四月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一一〇円
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シートハイバリア

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

新商品　**猪レスSTOPテープ**　**ヒルノックWスプレー**　**ヒルノックW**

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1−19−10　お問い合わせ TEL. 03(6740)7777　平日 9:00〜17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1